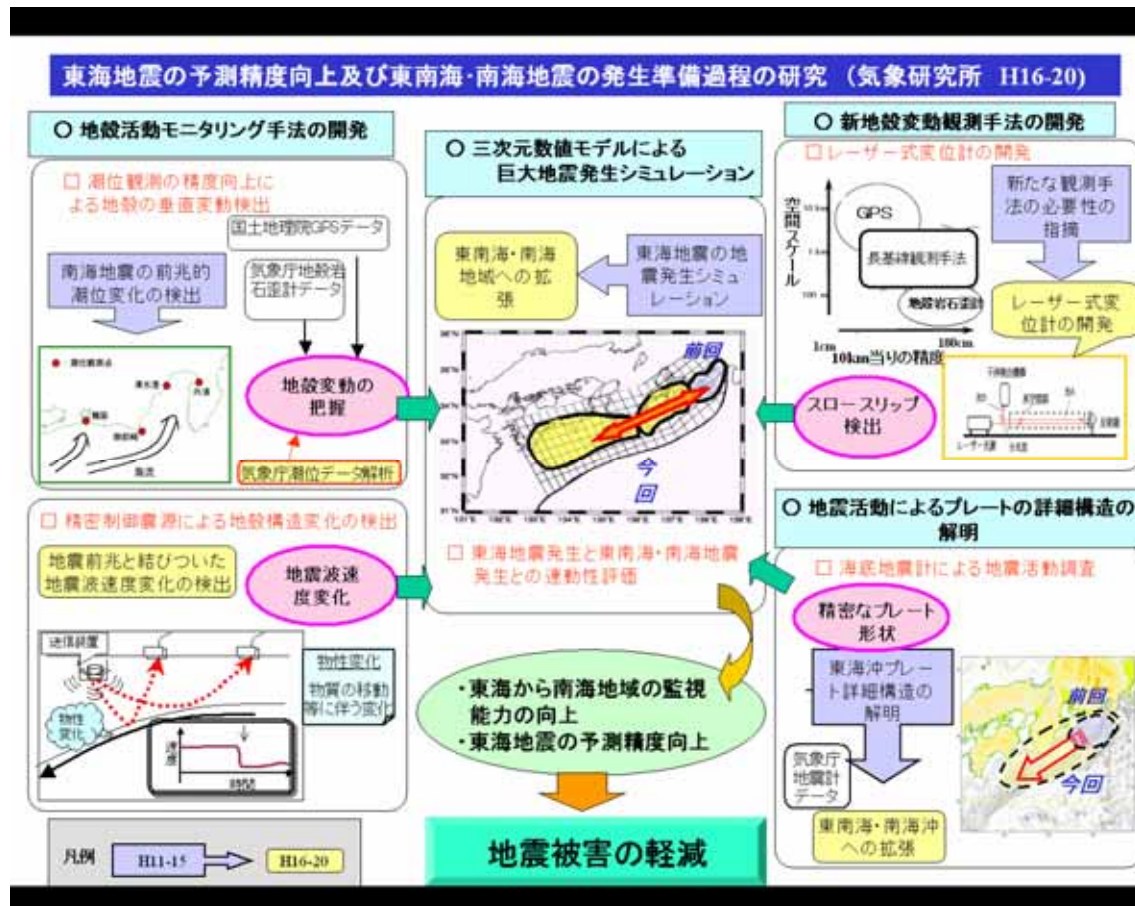


機関・センター提案

内容：海溝沿い巨大地震の発生予測に向けたシミュレーション及びモニタリング技術の高度化、並びに関連した知識ベース開発の推進（10分）

提案者：気象研（発表者：森 滋男）

気象研究所では、第2次計画（H16-20）を踏まえ、東海から南海地域の監視能力の向上、及び東海地震の予測精度向上を具体的な目標とし、それらの推進に不可欠と考えられた次のような研究項目を実施してきている。



次期計画においても、「地震発生サイクルにおける現在のステージ」や「プレート間カップリングの状態変化」の推定に結びつけることを目標とし、シミュレーションで用いる構造等のモデルに関する最新研究成果を踏まえ、モデルの改善とそれに応じたシミュレーション技術の開発を進めることが必要と考える。また、上述の目標を念頭におき、必要とするモニタリング技術として、「精密制御震源を用いた技術」、及び「GPSと岩石歪計の観測境界領域をカバーする観測技術」の開発研究をさらに推進し、プレート境界付近の挙動をより信頼度高く把握できるようにする努力が必要と考える。なお、特に海域下で発生する変動については、海域で観測する技術が重要であると認識している。

ところで、関係機関からのこの種の研究成果を、同関係機関で適切に共有することで、効率的な研究の推進が期待できる。しかし、必ずしもそれを推進してきていない。このため、そのような共有を可能とする体制を作る（本提案では「知識ベース開発」と呼んだ）ことが重要と考える。